

得て、凡そ一時間も得意の熱帯を振った。後
反響や如何にも、私かに聴者の顔色を窺つた
何ぞ知らん、聴者は既に昇天してゐたのであつ
た。否先生初めから屍体に向つて説教した
のであつた。

斯うした生活が、明治十二年の春迄続いた
其の間廣川氏に、郷里並に家庭の事情を訴
へ、兩親の同心に助力されんことを乞ひ、且
つ親しく東北地方の民情を、觀察せんことを
勧めた。かくて十二年春廣川氏は愈々信
者なる一商人を作り、第一回目的東北地方視
察旅行の途につかれたのである。而して豫
定の如く石巻町に到り、吉田先生の兩親を見
舞ひ、兩親を初め親戚知友に主の道を説いて
歸へられた。

明治十二年七月、吉田先生自身が聖書を販
賣しながら、東北地方へ傳道旅行を試みた。
先づ釜蓋港で荷物を受取り、之を兩天秤に擔
いで黒川郡吉岡町に向つた。荷物は全部聖
書で、その重量は十八貫目以上であつた。吉
岡町を振り出しに古川、築館、金成、一ノ関に
至りて、戻り更に仙臺市から作並峠を越えて
天童町に出で、樺岡、大石川、清河、鶴岡を經
て鶴岡峠を越え、越後に入らうとしたが途中
木股村から更に鶴岡に逆行し、酒田町に出で
清河、古川、山形、上山、米澤、小松、小國、黒川
中條を經て九月下旬新潟に歸つた。此行中
々面白い出来事にも出會ひ、又色々有益な經
験をも嘗めたが今その一二を記して見やう。

第一は吉岡町から三本木に至る時にさし
か、つた時の靈的危機である。十八貫の重
荷に双肩ひしがれ、小やかな峠であるが登り
つめた時には、流汗淋漓拭へども、盡きな
かつた。兩足は夏だらけである。噫何を苦
んでかうした真似をするのであらう。花の
都には高給を以て招聘せんとする會社があ
るのである。故郷の兩親はびたすら自分の
立身出世を待ち望んでゐるのだ。而かも炎
天に曝され、重荷を負うて辛じて雨露を透さ
ぬを癒すにすぎないのである。止むを得ず
傳道師。右せんか左せんか、途に大地に伏
して涙滂然、途方にくれて殆ど祈る力さへも
失はんとした時、悠忽として眼前に顯はれた
のが十字架の基督である。奮然として起
ち上つた。そして再び跪いて祈つた。一
生基督の僕として柔順に服従し得る力を與
へ給へと祈つた。當時の心的状態時の有様
と共に五十年後の今日、尙髮鬚として心眼に
窺する。

た。盛岡市の鈴木松村氏、弘前市の本多庸
一等と共に、ハヤ博士より受洗した人だ
である。古川町でハヤ博士が説教を聴か
れたが、さて明日は日曜日だから説教をして
呉れと切り出された。拒み兼ねて宿に歸つ
たが、遂に意を決して夜逃げを敢行した。他
派に對して自分の教派を傷ける様なことが
あつてはと愚案したからである。翌日は高
清水町で安息日を守つたが、列席したのは矢
張りハヤ博士の教會で、説教を聴聞した後
一ノ関町に行つた。度が此處でも亦ハヤ
博士の教會に到り、説教を聴聞した。偶盛
岡市駐在の天主教教師と邂逅し、直ちに宗教
論を戦はした。その結果盛岡行きを中止し
て一ノ関町から引返した。蓋し當時盛岡市
は天主教が全盛だつたからである。

仙臺支部會員に告ぐ
同窓會總會後に支部總會を開き

途を一直線に裏山に登つた。登る事、里餘
にして下りなつた。下ること亦一里餘に
して河を渡れば、間もなく先の茶屋の前に出
たのである。茶屋の息子が除隊兵があり保
護を申出たので更に一泊し、翌十七日除隊
隊兵に護衛されて無事に鶴岡に引返した。

その下更に酒田町を振り出しに、山形縣下
の諸邑を巡視し、遂に越後の中條町に出たが
此處でも亦一の大事件に遭遇した。即ち中
條教會を訪れて、某氏が教會の柱を切り懸や
戸障子を破り、亂暴横暴をふるふ様な有様を
目撃したのである。市の起因は當時新潟縣
下にコレラの流行を來してゐたが、民衆の
間に縣廳の役人と耶穌の奴等が、相結託して
井水に病毒を散布し廻ると云ふ、今日ならば
愚にもつかぬ宣傳が行はれ、且つ信ぜられた
のである。かくて會堂を叩き破らし奴等
を打ち殺せしむる事になり、その暴動の餘
波が中條町にも及んだのである。

ハヤ博士が外國人なので、萬一を慮り警官
を附してその身邊を警戒させた處から、縣官
耶穌教徒相結託せり誤解し、又全氏が宣教
師兼醫師なので、一般の診療に従事し、出入
の患者が藥液を携帯した處から、之を汚濁な
り誤解したものであつた。然るに丁度吉
田先生が沼垂を經て新潟に着く豫定日に縣
立病院の一患者が藥液を携へ、渡船で沼垂に
歸る途中、その舟が着陸するや、舌や齒の中
に隠れてゐた暴民が突如跳り出で、竹槍を以
て一撃の下にその患者を突き倒したのであ
る。般頭は仰天して直ちに舟を廻へし、か
く警察に訴へた。數名の警官が直ちに武
裝して沼垂に到り、ピストルを以て暴民を亂
闘の末數名に負傷させて漸く之を平定した。

此時一方新潟市では、吉田氏が殺された
喧傳され、他方沼垂では押川氏が殺された
信じられたのだから、事實はかうなのである。
傳道の爲毎月一日沼垂に出張してゐた押川
氏が丁度出張日だつたけれども、市内が不
穩の爲にそれを見合せ、一方當日新潟に着
く筈の吉田先生は途中で、一日遅れた爲事後
即ち翌日沼垂の渡しを渡つて無事に歸
宅し、殺害されたのは實に縣立病院の外來患
者なる沼垂町民だつたのである。先生はか
くて三度辦理の奇しき御手に護られたので
ある。(續く)

會計 阿部從二

兩師祝賀會費寄附募集
豫而募集あり

雜報

○ソク先生。御一身上の都合で御歸米な
された同先生には、其後ハイアルヘルク大
學教授として活動中であつたが、今同學院
當局及びリソアムド、ミッソンの懇請
によつて、再び學院神學部教授として來任
されることになり、なれたる由にて、多分本年
中に來任なさる事と思ふ。かくて母校の
各種の事に色々、新しい施設が實行さる
ことと思へば、一日も早く同先生の御來
任をお待ちするものである。

○ミセス、ホーイ。支那湖南省岳州に來新學
堂を經營せられつゝ、あつた、我が學院の創
立者ドクトル、ホーイ夫人は、目下同所に
再び歸任せられて、一人の子供さんと共に
獻身的傳道を繰返されつゝ、あり、先年驚き
且つ悲しむべき色々なる難儀に遭はれた
るにも拘らず、再び支那傳道に身を捧げら
れ、亡くなられたホーイ博士の遺業を繼
せられつゝ、ある同夫人、家の上に、神の御
祝福の多からん事を祈るものである。お
住居は Mrs. Wm. E. Hoey.
Lakeville, Yeshaw, Hunan, China.

○郡山先生には、一々半年の豫定を以て米國
の英語教授視察研究の目的にて、去七月
三十日米國へ渡航の途に就かれた。長期
間の御滯米中、何卒御丈夫で完全に目的を
果され、無事御歸任あらんことを祈る。
○リカレ先生。オハヨー大學を出られた
お著い先生である。専門部と中學部を兼
擔せらる。

○醜馬將校坂本中佐殿には、過般の異動で旭
川騎兵第七聯隊長に御榮轉、後任として熊
本師團騎兵第六聯隊附より、本川治郎中佐
殿御來任せらる。尚坂本中佐殿から極め
て面白い、御叮嚀なる御通信があつたと承
る。

○講師の更迭。東北大學から阿部次郎、新
明正道、島田謙二、各先生及尚樹女學校か
ら丸山吉永先生等講師として、お願してあ
つたが、色々御都合上御退職なされ、同
時に飯原好市(社會學)眞津彦重(文學概
論)の兩先生をお願した。

住所不明の諸君へ

病院に御入院、三十日手術を受けられ、其
の結果非常に善いことを承る。一日も早く
御全癒あらんことを祈る。日下御自宅で
御静養中である。

○牧村少佐殿(中學部副局長) 御母堂には
兼て御病中の處、お藥用効を奏せられず途
に去る七月三十一日御永眠せらる。吾等
は謹んで弔意を表し、御遺族一同の上に天
の御慰め充分にあらんことを祈る。

○母校の現在生徒數は、九百二十四名で内
廿二名神學部、三百五十五名高等學部(舊
專門部)中學部五百四十七名である。教職
員は教員七十名、副局長二名、書記七名
合計七十九名(講師計入)である。經費は
神學部一萬五千二百七十四圓、專門部五萬
一千六百五十五圓、中學部六萬二千〇七十
五圓で、合計十二萬九千四百圓の大世帯であ
る。此内米國の外國傳道會社の寄附金は
八萬九千圓で、ナカノ、多額の寄附金を受け
てゐるのである。此の外に所謂中央資金
(各種高等政策費の様なもの)があるだら
うけれども、我等には不明である。

○中島宗治先生。東北大學内に於ける數學
會議に御出席の序を以て、去七月二十九日
我が學院に御立寄りなされた。先生は七
月一日の官報で、高等官三等になられた
旨發表された。

○黒石武城先生。去る八月一日の異動で歩
兵四聯隊副官に委任せらる。聯隊長大嶋
子爵の女房役まで、非常に御多忙の事であ
つた。

○上野久義先生。水戸聯隊附として滿州鐵
道に駐屯中であつた同先生は、過般水戸に
御歸還過般の異動の際に、歩兵中佐に昇進
せらる。